

# 小売業の中の中小企業

1998・1・8

『小売業の中の中小企業』

なぜ商店数が減少するのか

商店数の減少そのものは小売業からの退出店舗と新規参入店舗の差の現れであり、退出店舗が参入店舗をかなり上回っていることによるものである。1」また直接的な原因は、戦後小売業の世界に参加した経営者の高齢化が進み、彼らに後継者がいなかったことによるものである。

商店数の減少は、参入店舗の数が退出店舗の数に間に合っていないためである。また、後継者不足なので、彼らを引きつけるア・ケ・ドやカラ・舗装を装備して、さらに商店街事業を展開する必要がある。

1」石原武政 『小売業における構造変化と地域小売り政策の課題』 - 空き店舗問題を中心として - 「商工金融」1996年1月 p、9

空き店舗問題とは何か？

「空き店舗」と呼ばれるものは、経営が行き詰まった店が新たな店の参加によって補充されないことになり、それがさらに他の施設によって補えない時、商店街の中に土地が発生するものである。2」これは商業密度を低下させ、商店の連体性を低下させ、さらには商店街の品揃え、店揃えの魅力を低下させる。これは極めて危険な兆候である。

空き店舗問題の解決方法は、空き店舗を積極的に営業施設で補充することによって、商業密度を維持する方向をめざすことである。

2」石原武政 「小売業における構造変化と地域小売り政策の課題」 - 空き店舗問題を中心として - 「商工金融」1996年1月 p、11

消費者の買い物行動とはいったいどのようなものか？

『HANSON(1980)の仮定によると次の5つの公理がある。1つは、特定の意思決定者は常にある特定の目的地のみを選択するという単一選択公理だが、現実には消費者は常に同じタスクに直面しておらず、タスク数や内容により変化する。2つめは特定意思決定者は1度にある特定目的地のみを選択するという単一目的トリップ公理であるが、実際消費者は購入する際、コストを減らしたり、複数小売店で比較するため、複数目的を1回の買い物に結合する。3つめは、目的地選択の相互背反性を表す独立性公理だが、実際の消費者の選択は、段階的であり、各段階によって基準が変化する。4つめは、一度均衡状態に達したら特定目的地を訪れる確立は、短期的には常に不変であるという安定的効用関数公理である。実際は、複数の買い物トリップやタスクが結合する際には、一時的な変動が生じる。5つめは、目的地の立地非関連属性についての評価は、その目的地の立地に関するいかなる評価とも独立であるという分離可能性公理だが、同一の立地非関連性と有する店舗であっても、周辺にいかなる店舗がどのように分布しているかによって効用は異なる。』[1]買い物行動というものは、買い物リストの選択やブランド選択が関わっていて、

それらが相互に絡み合っているということである。

〔1〕「大型店出店による地域小売構造の変化」

消費社会もの行動研究に基づく考察 近藤浩之 1994.7.6

p 31 . p 32

戦後、大手小売業が台頭する中、中小小売業はなぜ生き残ってきたのだろうか？

当時大手小売業は1950年朝鮮戦争による特需ブームならびに53年の消費景気〔1〕によって、急速に発展していった。そのような中で小売業は寄り合いスーパー、商店街の再開発など、中小小売業同士で集団化することによって大手小売業に対抗してきた。その結果、競争的対立は激化し、零細な専門店が経営不振や廃業に追い込まれていったため、73年に「大店法」〔2〕が制定され競争は緩和される方向へと移行することになる。現在寄り合いスーパーや商店街は地域と密着するという利点を利用して経営を進めている。大型店よりも1人1人のニーズに答えられるというこの強みこそが中小企業が生き残れた理由だろう。

〔1〕〔2〕宮副謙司「中小小売業と大手小売業の関係変化と商業政策」

流通システムNO.89.1996.9 p.97

これからの中小企業はどうあるべきか？

ここ10年間の商店街の変化にはめざましいものがある。その1つに「タウンブランド化」があげられる。「タウンブランド化」とは商店街の街としてのイメージがブランドとして形成される〔1〕ことであり実際にタウンブランド化が進んでいる街もある。東京自由が丘はそのいい例で、LLビーン、エディバウアー等の大手小売業が経営する専門店〔2〕が複数進出している。ここで問題になってくるのが中小小売業と大手小売業の関係である。商店街には、地域と密着した中小企業が多い。しかし実際問題、中小企業を主体とした計画・推進は難しく、若手達の人気を集めるためにも大手小売業の進出はやむをえないことである。これからの商店街は、大手小売業、中小小売業の利点をそれぞれ生かし、相乗効果によってよりよい街を作っていくべきである。

〔1〕〔2〕宮福謙司「中小小売業と大手小売業の関係変化と商業政策」

流通とシステム NO.89.1996.9 p.100

## 文献リスト

- 石原武政「小売業における構造変化と地域小売り政策の課題」 - 空き店舗問題を中心として - 『商工金融』 1996年1月
- 近藤浩之「大型店出店による地域小売構造の変化」  
消費社会もの行動研究に基づく考察 1994.7.6
- 宮福謙司「中小小売業と大手小売業の関係変化と商業政策」  
流通とシステム NO.89. 1996.9